

# 第1回 幼・保・小合同研修会

と き 令和元年5月23日(木) 午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

「自閉症スペクトラムや学習障がい等の問題を抱えた子どもの支援と保護者対応のあり方」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インクルーシブ教育システム推進センター主任研究員 柳澤 亜希子 先生

講師の柳澤先生は、国立特別支援教育総合研究所自閉症教育研究班において、平成28年から29年にかけて自閉症に関する基幹研究に取り組みました。

今年度は、「自閉症スペクトラムや学習障がい等の子どもの支援と保護者対応の在り方」という演題内容で、教育講演を行っていただきました。



## 講演内容

- 1) 発達障がいの基本特性
- 2) 特性を踏まえた支援
- 3) 子どもと大人との相互的な関わりの重要性  
～事例から考える～
- 4) 保護者理解と保護者支援



☆柳澤先生は、自閉症の子どものと接する時、「なぜ、そのような行動をしたのか。」「どうすれば、同じミスをしないうちに指導できるのか。」と行動面に焦点を当て個を捉えがちだが、「その子の良さを見過ぎてはいないか。」「無限の可能性を持っている子どもの関心をいかに伸ばしていくかが大事である。」と強調された。

一人の子どもとして成長していることを喜び、周囲の人との関係性を上手く築くことができるように支援していきましょう！

☆幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の先生等100名が参加しました。

## 自閉症のある子どもに見られる認知面の特性

～中枢性統合機能の弱さ～

- ・外界からの様々な情報を処理し、統合して脈絡の中で意味を構築し、それを利用することに難しさがある
- ・困難さを示す一方で、優れた認知能力として捉えることができる
- ・全体を捉えることは難しいが、細部を捉える事が得意である

## 読字や書字に見られる特徴

<読字>

- ・文字を一つ一つ拾って読む
- ・単語あるいは文節の途中で区切って読む

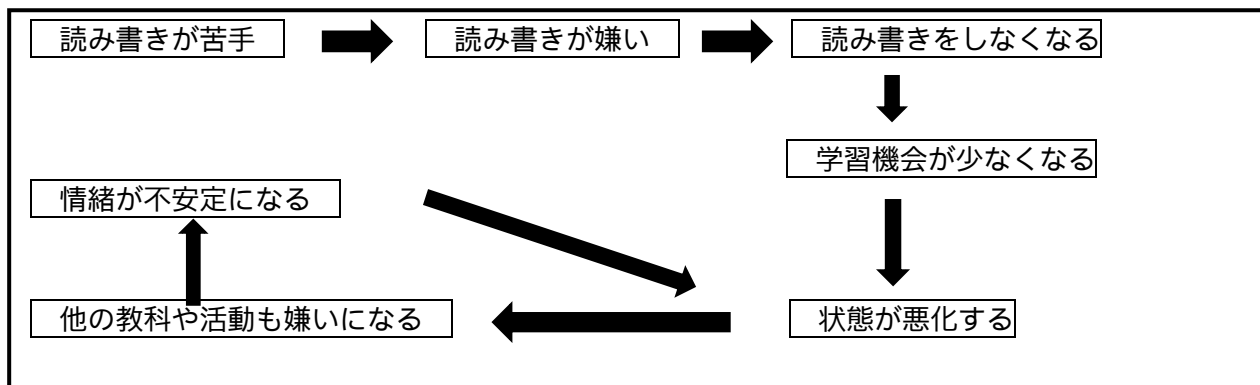
<書字>

- ・同じ音の書字を誤る
- ・形態が類似した文字の書字を誤る

令和元年度 幼・保・小連携推進事業

- ・文字間隔や単語の間隔が狭いと行を取り違えて読む
- ・文字を読み飛ばす
- ・文末などを適当に変えて読む
- ・音読みあるいは、訓読みしかできない
- ・特殊音節を書き間違えたり抜かしたりする
  - ※教科によって何に難しさがあるのかを捉える
  - ※お話はとても達者なのに、幼稚な絵を描く（物を捉える事が難しい）

学習障がいをもたらす二次的な影響



だから、

- ◇早期からの支援の重要性・・・早期支援は発達を促す意味で大切
  - 適切な働きかけを行うことにより、予後を良好に導く
  - コミュニケーション能力や言語能力などにおいて改善が見られる
  - 保護者（家族）の子育てに伴う不安や混乱を軽減する

◇自閉症のある子どもへのアプローチの方向性

- ◆安心できる場所づくり
- ◆視覚的な目印・・・どこで何をすることが分かる
- ◆教室環境の工夫 視覚でイメージが持てるようにする
- 目で見えて理解し、自分で判断して行動することが大事
- ◆個々の認知能力を考えて環境をつくる。
- ◆子どもの興味・関心を尊重する

《環境づくりや言葉かけのポイント》

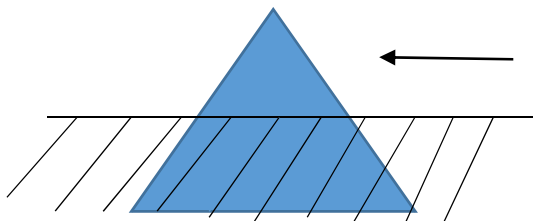
- ・事前に予定を示す
- ・指示やルールは視覚的に示す
- ・子どもの注意をひいてから伝える
- ・具体的に伝える（褒める時も同様・・・褒められることで自己肯定感が高まる）
- ・無理なく参加できる方法を見つける
  - （他のことをしていても同じ場所で過ごす、時間を区切って参加する等）
- ・子どもの好きなもの（興味のあるもの）を取り入れる

子どもの多様性に応えることが大事

保護者支援で留意すべきこと

- ・個々の保護者によってニーズは異なる
- ・子どもと保護者（家族）を取り巻く状況（環境）を考慮する
- ・保護者が優先している問題について考える
- ・保護者が実行できる支援を考える
- ・保護者の持つ力（長所）を活かす

子どもを含めた家族支援が重要



私たちが見て（知って）いるのは、一面である

しかし、

理解しようと努めなければ、いつまでも歩みよれない

《アンケートから》

- ・今回の研修で、より良い関わり方や支援の方法を学ぶことが出来た。スケジュール表や教材などぜひ、チャレンジしてみようと思った。
- ・とてもためになる研修だった。自閉症の子に関わる支援は、常に子どもに寄り添いながら共感したりその子の立場に立って物事を考えたりできるようにしていきたい。
- ・一つ一つがとても分かりやすく、大切なことに改めて気付かされた。今の自分の支援が、その子の成長に繋がると希望を持ち関わっていきたい。
- ・とても分かりやすいご講演をありがとうございました。一人一人を尊重して保育することの大切さを再確認することができた。
- ・「この子はこうだ」と決め付けてしまう傾向がある。それを保護者に伝えてしまうこともあった。保護者はその子のことをたくさん知っている、それを教えてもらう意識を持つことに共感した。
- ・具体的な事例がたくさんあり、納得することがとても多かった。今後の保育に活かしていきたい。
- ・資料がとても分かりやすかった。
- ・細かい視点まで学ぶことができ、大変参考になった。
- ・自閉症の子は言葉では伝わらないことが多い。目で見て分かりやすい指導は健常児にも適用できるので、目からうろこ「そうだ！」と再発見させられた。とても分かりやすい内容だった。
- ・実際に現場で活かせる内容で、勉強になることがたくさんあった。
- ・一人の子の成長を願い、良さを活かして支援することが大切であることを改めて感じた。
- ・具体的で分かりやすい内容だった。発達障がいのAちゃんではなく、一人のAちゃんとして接することの大切さが心に響いた。忘れてはいけないことだと思った。
- ・目の前の問題行動だけでなく、その背景を捉えていくことが大切だと思った。保護者に対しても信頼関係を持ち言葉の裏にある思いを汲み取っていくことが大切だと分かった。